

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

自主自立の精神を培い、違いを認め合う豊かな人間性と確かな学力を身につけ、社会における個人のあり方を考えられる生徒を育てる。

- 1 地域に根差し、家庭や大学等と連携して吹田東ならではの豊かな教育環境を築く。
- 2 自ら学び、理論的に考える態度をはぐくむ、特色ある吹田東の「学び」を確立する。
- 3 安全で安心の中で、一人ひとりの生徒が活躍できる吹田東をめざす。

## 2 中期的目標

新しい校舎への建て替えの機会を生かし、吹田東高校の組織的な教育活動の確立をめざす

- 1 次期学習指導要領を見据えて、生きて働く「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現等」の育成をめざす。アクティブラーニング等の導入による生徒の授業への参加意欲の向上。授業形態の工夫やICT機器の効果的活用から、興味・関心がもてる授業、知識・技能が身についたと感じる授業をめざす。
  - (1) 指導と評価の年間計画（シラバス）を、年度最初の授業で、生徒に説明する。
  - (2) 資質・能力の育成につながるよう多面的・多角的な学習評価（観点別評価）の工夫を図る。
  - (3) アクティブラーニング等により生徒の授業等への参加意欲を向上させる。授業形態の工夫やICT機器を効果的に活用した授業実践を推進
    - ※授業への参加意欲を向上させる
    - ことにより、生徒向け学校教育自己診断における「全体として授業に満足している」の肯定的回答（平成28年度58%）を、平成31年度には70%にする。
    - 指導と評価の年間計画（シラバス）は役立っている肯定的回答（平成28年度52%）を平成31年度には60%にする。
- 2 確かな学力や高い志等をもてる学習支援
 

生徒に応じた学習支援を行い、学習の成果を実感させ、やる気と達成感を持たせる。大学との連携、外部施設も積極的に活用を検討する。

  - (1) 進学実績等で達成感を維持する。国公立関関同立産近甲龍150名。
  - (2) 教科として講習の実施について年間計画を策定する。土曜講習の中に青葉丘セミナー（大阪大学との連携セミナー：大阪大学生が補助で入り込み）を設定する（1、2年）。
    - ※生徒向け学校教育自己診断における「先生の講習は役に立った。」の肯定的回答として平成28年度85%を維持する。
  - (3) 漢字検定を1年、TOEIC BRIDGEを1、2年生、全国レベルの模擬試験を2年全員受検させる。
    - ※生徒が達成感を持って、漢字検定に取り組むよう、総合と国語科授業で連携しながら前年度より3級不合格者を減少させる。TOEIC BRIDGEの有効性活用を検証し、新しい大学選抜制度にかみ合う取組みを検討する。また、3年次の進路指導において、模擬試験の結果を有効活用する。
  - (4) S講座（外部講師が本校で講習をする実力養成講習）を実施し、部活動との両立を図りつつ実力を養成する
  - (5) 成績不振者に対しても、平日や土曜に指名補習を教科実施する。1、2年は土曜講習などの中に青葉丘セミナー（大阪大学との連携セミナー：大阪大学生が補助で入り込み）を設定する。
    - ※成績不振による原級留置者0名を目標とする。
  - (6) 図書室、自習室の利用促進を図る。
- 3 豊かでたくましい人間性をはぐくみをめざす。生徒が自信をもって社会に巣立つ学校づくり、自尊感情の育成・自己肯定感の醸成
  - (1) 基本的な生活習慣を確立させ、生徒相互にも気持ちを伝え合える環境づくりをめざす
    - あいさつ指導、遅刻指導、服装指導、ベル着指導（チャイムと同時に授業開始）をおこなう。
    - ※積極的にあいさつ、声掛けを心がける。年間遅刻数（年間一人平均1.2回）以下を維持する。
  - (2) 社会で通用する人材を育成するため3年間のLHR計画などを策定する。
  - (3) 教育相談を充実させ、課題を抱える生徒の個別の支援教育活動を充実させる。健康を適切に管理し、改善するための資質や能力を育成する。
    - 「担任の先生は気軽に相談できる。担任の先生以外に、気軽に相談できる先生がいる。」の肯定的回答を平成31年度63%（平成28年度53%）をめざす。
  - (4) 学校生活を快適に過ごせるよう、教室等の施設設備の充実と美化に努める。
  - (5) 一人ひとりの生徒が活躍できる場面をつくる。
    - ・特別活動を活性化。そのために、学校行事、学年行事、部活動を活用する。
    - ・生徒委員会活動等を活性化。 (図書委員、保健委員、HR代表、庶務委員会、体育委員、風紀委員、合唱委員、文化委員)
    - ※生徒向け学校教育自己診断における「クラスの活動に積極的に関わっている」「体育祭、文化祭などの生徒会活動に積極的に参加している」の肯定的回答が平成31年75%をめざす。
- 4 開かれた学校づくりと広報活動等の充実
  - (1) 開かれた学校づくりとして、学校行事等の公開。地域及び地元幼小中学校との連携を図る。
  - (2) 本校の特色を活発に広報等する。
    - ・ウェブページ、本校の学校紹介のパンフレット、プレゼンテーションソフト、DVDを適宜更新するとともに、中学校、塾の訪問を継続実施する。
    - ※新入生アンケートの「吹田東高校のホームページを見たことがある」の回答（平成28年度76.2%）を引き上げ、平成31年度には82%以上にする。
- 5 人材育成への取組
  - (1) 設立10年目を迎えるGUTS（若手塾）の取組みで経験の少ない教員の育成に力を入れる。
  - (2) 経験豊かな教員の知識等を、後進教員へ生かす取組みを実現。ミドルリーダーに育成
- 6 個人情報等の適正な管理
  - (1) 個人情報等の適正な管理を行う。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>・「入学してよかった」について、生徒より保護者が高く、学年を進行するにしたがって上がっている。各問に対し、昨年より肯定的な意見が増えていることから、学校の方針に対し、全体として理解・満足が深まったと考えている。</p> <p>・授業の満足度は昨年より向上したものの約60%とまだまだ低い。今後のカリキュラム、授業内容を考えていく必要がある。</p> <p>・保護者への情報発信については昨年より向上した。特に、進路指導面では、きめ細かな指導ということで評価されている。</p> <p>・生徒指導では、厳しいとする意見もあるが、保護者の70%以上が共感しており、理解されている。</p> <p>・体罰やセクハラについて許されないとする生徒が多く、健全な人権意識が身についている。</p> <p>・学校行事、部活動について、保護者から活発であるとの意見が減少した。生徒会を中心に、より積極的に生徒の活動を進める取組みを考える必要がある。</p> <p>・生徒と教員の関係では、「気軽に相談できる」の項目で担任、担任以外ともに5%以上向上した。1年生から担任以外の部活顧問など様々な教員と話ができる環境を整えるとともに、コミュニケーション力を高めることがより改善につながる。</p>	<p>【第1回 6月20日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻指導の成果が上がっているのので、指導を継続していただきたい。</li> <li>・大学入試改革をふまえ、学校経営計画の変更や、就職希望者のためのキャリア教育の充実もしていかねばならない。</li> </ul> <p>【第2回 11月27日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新校舎建設に当たってIT環境は整えてもらいたい。後追いにしないようにしなければいけないと思う。</li> <li>・長いスパンで自分の人生をどう生きようとするのか、社会に出たときにどういう人間でありたいのかというようなことを自分自身で考えさせる取組みをさらに進める必要がある。</li> </ul> <p>【第3回 2月21日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業にきちんと参加するだけでなく、より主体性を持って授業に臨ませるといことも課題である。</li> <li>・地域連携という点で行っているクリンキャンペーンについては、地域美化に効果があったと考える。この取組みは意義があることであるが、方法や別の取組みについても考えてはどうか。外国の方は、日本の町がきれいなことに驚かれることが多い。国際交流等で紹介していくことも考えてはどうか。</li> </ul>

## 府立吹田東高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
ICT等 の導入。	次期学習指導要領を 見据え、アクティブラ ーニング等の導入。	(1) 年度初めに、科目毎に作成したシラバスを配付し、評価の仕方等の説明をする。(2) 各教科科目の観点別評価の検討をする教科会議等を、確保する。(3) グループ学習等のアクティブラーニングや、ICTの効果的な活用で、授業等への参加意欲を向上させる。・授業改善委員会等を通じ、授業アンケート、授業観察シートを、授業改善に活用する。 ・ICTを活用した公開授業を、公開授業週間に全教科で実施する。ICT(電子黒板、プロジェクター、TV、ビデオ、書画カメラ、パソコン、タブレット等)を授業で活用する。	(1) 自己診断における、「シラバスは役立っている」の肯定的回答を、55%以上をめざす。(2) 各教科科目の観点別評価の検討をする教科会議等を、10回以上確保する。(3) 授業アンケートで、興味・関心、知識・技能の全体平均を、平成28年度より向上。2回目において、全体の平均値の向上。・授業観察シートの活用度向上。・教員相互の授業見学実施率90%(平成28年度88%)	(1) 54.3%まで上昇【○】 (2) 時間割中に教科会議を入れ、検討している。【○】 (3) 興味・関心、知識・技能 3.08←3.00。【◎】 2回目における全体の平均値 3.18→3.19【○】 授業見学実施率91%【○】
確かな学力、高い志をもつ学習者支援	生徒に応じた学習支援を行い、学習の成果を実感させ、やる気と達成感を持たせる。大学との連携、外部施設も積極的に活用を検討する。 (1) 進学実績等で達成感を維持する。 (2) 教科で講習の年間計画の策定実施 (3) 漢字検定(1年)、TOEIC BRIDGE(1・2年)、模試(2年)を全員受けさせる。 (4) S講座を実施し、部活動との両立を図りつつ実力を養成する (5) 成績不振者に対しても、平日や土曜に指名補習を教科実施する。 (6) 図書室、自習室の利用促進	(1) 進学実績等で達成目標を設定する。3年間の進路指導計画を設定する。自宅での学習習慣の確立や講習への参加促進のため保護者との連携を強化する。・進路指導部が卒業生の進路状況を分析し、教職員全員参加の情報交換会を行う。(2) 年間通して土曜日、平日放課後、早朝の講習と夏季講習を実施する。土曜講習の中に青葉丘セミナー(大阪大学との連携セミナー:大阪大学生が補助で入り込み)を設定する。 (3) 漢字検定、TOEICBRIDGEテストを実施することにより、資格取得と次への意欲喚起を行う。模試を全員受検し、進路意識を高める。 (4) 外部講師に対し、指導方針をたて効果がえられるようにする。講習参加者が最後まで継続できるようにする。 (5) 指名補習の欠席者に対しては、生徒を指導するとともに保護者にも連絡する。・合格に向けて週休日の家庭学習の定着を図るため、総合で基礎学力診断テストを実施し、成績不振者は宿題等個別指導をする。 (6) 図書室の蔵書を使って生徒が調べ・学ぶ授業を増やす。・生徒の心の糧となる読書をすすめる。自習室の利用促進を図る。	(1) 国公立・関西私立大(関関同立産近甲龍)現役合格者数130名・3年間の進路指導計画の効果的実施の実現。・学校生活実態調査や模試結果の有効活用を更に図る。・進路ガイダンス等の回数の増加・授業以外の学習時間1時間以上の生徒増加(平成28年度9月1年45%2年46%3年65%) (2) 「先生の講習は役に立った。」の肯定的回答(平成28年度85%)を維持する。(3) 漢字検定3級の合格率90%をめざす。TOEICBRIDGEで、目標1年生平均115点(H28平均111.7)、2年生平均120点(平成28年平均117.3)(4) 欠席者に対して、出席喚起連絡する等支援を行う。出席率のアップ。(5) 成績不振による原級留置者0人(6) 表現演習・総合の時間等授業で、図書室利用を図る。生徒図書委員による図書館便りの発行。来室生徒数、貸出冊数の増1200冊(H28年1166冊)・自習室の利用1日平均12人以上。学習習慣定着のため、自習室も活用する。	(1) 129名(3/5現在)【○】 進路ガイダンス等の回数 約40回(昨年より10回程増) 授業以外の学習時間1時間以上の生徒(9月):1年52%、 2年46%、3年85%【◎】 (2) 91.0%【◎】 (3) 62.6%【△】 (4) 長欠者が多かったが、欠席者は2462名と減少。【○】 (5) 0名【○】 (6) 他科目でも図書館を活用 来室生徒数増、貸出冊数1352冊【◎】 自習室の利用は1日平均約10名だったが、図書室・教室で自習する生徒が増えた。【○】
生徒が自信を持って社会に巣立つ学校づくり・ 自尊感情の育成・自己肯定感の醸成	豊かでたくましい人間性のはぐくみ。 生徒が自信を持って社会に巣立つ学校づくり・ 自尊感情の育成・自己肯定感の醸成	(1) あいさつ、声掛け、遅刻指導、服装指導、ベル着指導・遅刻者に対しては、段階的な指導を行う。・服装指導の高い評価を継続する取組み推進。(2) LHR計画や総合的な学習の時間で、志(こころざし)学に取り組む。特に生命尊重の取組み、防災教育の取組み、人権尊重の教育、キャリア教育、健康教育を推進する。国際理解教育の一環として、海外の高校との交流と、語学研修の実現とその成果を共有化する。(3) 教育相談について生徒に周知し、相談しやすい雰囲気をつくる。・高校生活支援カードの有効利用。・定期的な教育相談委員会の開催により、支援の必要な生徒を早期に把握し、適切な支援を行う。必要に応じて外部機関や専門家との連携を図る。検診時を、「健康教育の場」と捉え、事前事後指導を充実させる。(4) 定期的な大清掃と学校行事前の一斉清掃に取り組み、快適な学習環境を整える。清掃用具の配備、適時補充も行い、生徒並びに教職員の美化意識を高める。(5) 学習活動を中心にすえた上で、学校行事・部活動に取組ませることで段取り力を育成し、達成感を持たせる。・クラブ代表者会議を通じて、生徒のリーダーを育てるとともに、部活動を活性化させる。・各生徒委員会を指導する分掌や係を明確化する。それにより、生徒委員会活動を活性化させる。(図書委員、保健委員、HR代表、庶務委員会、体育委員、風紀委員、合唱委員、文化委員)	(1) 年間遅刻数(年間一人平均1.2回以下)を維持(平成28年度0.84)。授業中の服装指導、ベル着指導の実施。 (2) 1年次に生徒同士の集団づくりや俳句創作や発表の機会を設ける。 ・オーストラリアとの交流・語学研修実施。希望者10名以上(H28年6名)(3) 「担任に気軽に相談できる。担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」(H28年度48.2%)の肯定率を上げる。検診結果から個別の保健指導を行う。特に歯科の追跡指導について年7回以上指導する。 (4) 清掃習慣の定着に向けた取組み推進。清掃場所に応じた清掃用具の配備と点検を行う。 (5) 「クラスの活動に積極的に関わっている」「体育祭、文化祭などの生徒会活動に積極的に参加している」の肯定的回答が多数を占める。 ・新入生の部活動加入率を維持(平成28年度88.8%)・生徒委員会活動の年間計画どおりの実施。	(1) 年間一人平均0.92回【○】 (2) 俳句指導(外部講師を招いて実施) オーストラリア・マジール高校語学研修 希望者10名、9名参加【○】 (3) 53.32%【○】 歯科個別指導を実施するとともに、啓発として文化祭で保健委員会から展示発表。歯科追跡指導10回【◎】 (4) 掃除用具について、不備はなくなっている【○】 (5) クラス65.5←64.3% 生徒会活動68.7←68.2%【○】 新入生部活動加入率87.8%【△】 ・生徒委員会活動は予定通り【○】
開かれた学校づくりと 広報活動等の充実	(1) 開かれた学校づくりとして、学校行事等の公開。地域及び地元幼小中学校との連携を図る。 (2) 本校の特色を活発に広報等する。	(1) 体育祭、文化祭等学校行事の公開。・クリーンキャンペーン(地域清掃活動)などで、地域連携の活性化を図る。・幼稚園等での生徒実習をおこなう。 ・中学校との相互の公開授業を行い生徒の授業理解度を高める。・大阪大学等との連携を継続する。・地域教育協議会等に参加し、その行事への生徒の参加を促す。 (2) 広報渉外等を担当するGTOのメンバーとして、校務運営委員、副担、新任4年目迄及び有志教員で運営していく。分担すべき内容についても、見直しを行う。 ウェブページに、情報を発信する。在校生保護者への広報活動も充実させる。・学校説明会等で使用する本校紹介プレゼンテーションソフトやDVDをさらに魅力あるようにバージョンアップする。・中学校訪問、塾訪問を継続実施し、情報収集と広報に努める。	(1) 体育祭、文化祭等行事の地域からの参加者数の増加。・幼稚園での生徒実習8回維持・地域教育協議会等への参加等を昨年と同程度確保。地域と保護者との合同企画も継続実施する。・クリーンキャンペーンの参加者300名以上(平成28年度409名)。地域と保護者の合同企画を引き続き実施する。・中学公開授業参加者数の維持(平成28年度11名)。「本校のホームページを見たことがある」の回答(平成28年度76%)を引き上げる。(2) 全教員による中学校訪問の実施。(平成28年度ほぼ全員)ウェブページの更新を組織的に役割を担えるように、改める。更新回数2回以上行う。	(1) 地域からの参加 体育祭・文化祭で36名参加(昨年10名)【◎】 幼稚園での生徒実習6回【○】 地域教育協議会等への参加・合同企画参加【○】 クリーンキャンペーン参加者423名(生徒335、地域38、教員27、PTA9、大学生14)【◎】 中学公開授業参加者数5名【△】 ホームページ閲覧82.5%【○】 (2) 中学校訪問は昨年と同様ホームページについては、随時更新。【○】
人材育成への 取組	(1) GUTS(若手塾)の取組みで経験の少ない教員の育成に力を入れる。 (2) 経験豊かな教員の知識等を、後進教員へ生かす取組みをする。ミドルリーダーの育成	(1) 校内での研修においては、参加体験型の研修を中心に、今後直面するテーマを取り上げて、OJTを進める。 (2) GUTS(若手塾)等で、経験豊かな教員が研修講師を務める。公開授業等の実施。	(1) GUTS年間8回以上(平成28年度9回) (2) ミドルリーダー等経験豊かな教員が、研修講師又は公開授業の実施などの機会を、年2回以上設定する。	(1) GUTS8回実施【○】 (2) メンター研修等GUTSと兼ねて5回【◎】
正管理 の適 個人情	(1) 個人情報の適正管理を行う。	(1) 個人情報の適正管理を行う。	(1) 個人情報管理表を基に、当年度廃棄分の適正処置実施。各部屋の当年度管理責任者を確認、引き継ぎを文書で実施する。	(1) 適正に管理されている【○】